

校長室だより No 27

2019年3月14日

柏市立酒井根東小学校

校長 梅津 健志

<http://www.sakainee-e.kashiwa.ed.jp/>

「6年間の読書の記録をプレゼント」

明日は、第三十八回の卒業証書授与式です。

6年間の小学校生活を巣立つ92名の子供たち。

今日はその一人一人に6年間の読書記録を作成して手渡しました。

私から卒業生へのプレゼントです。

6年間で最も読書をしていた子供は、約680冊の本を読んでいましたが、数ではありません。一人一人がどんな物語と出会い、どんな世界と出会ったか、一冊一冊の本と一緒に過ごした時に頭の中に浮かんだ様々な風景や想いが、一人一人の心の栄養になり、考え方の基になっています。

本との思い出と一緒に懐かしく6年間を振り返って欲しいと思います。

欲張りな願いですが、この記録を20年30年ととっておいて、自分の子供が生まれた時に、「お母さんはね、お父さんはね、こんな本を読んでいたんだよ」と話してもらえると、とてもうれしく思います。

世の中には流行と不易があります。読書はどんなに時代が変わっても変わらず残るものではないかと考えています。

実は、この読書記録を渡すことが、12年前からの私の夢でした。

中原小学校で担任をしていた時、図書館やパソコンをフル稼働する授業をよく行っていました。その後、柏市の教育委員会で図書館活用の仕事を任された時、今の貸出システムの導入や指導員配置の立ち上げに携わっていました。

図書館の貸出システムを全校に導入するには、数千万円の予算がかかります。財政課や企画課の方々に、「柏市の学校を卒業した子供は、学校図書館で読んだ本のリストを手に卒業できます。他の市ではできない大切な宝物になるはずで」と説得して獲得をしたのです。

その後も教育委員会の勤務が多く、ようやくここで私が望んだ夢が実現しました。

6年生はキャリア教育で「誰かに喜んでもらえる、誰かの役に立つために、仕事を行う」という、仕事の本質について学びました。12年前、3年かかりで導入までこぎつけた時の想いが蘇り、子供たちが自ら歩いた確かな道しるべである読書の記録を手に巣立ち、本の世界を広げ、現実の世界をよりよくしていく大人に成長して欲しいと願います。

本校は、地域のボランティアの方々の協力で朝の図書館が開館され、低学年を中心に多くの子供たちが読書に親しんできています。この子供たちが卒業する時は、6年間で1000冊以上読書をしている子もたくさんいるだろうと、将来が楽しみです。

